

令和4年 日田市の出来事

令和4年の主要な出来事をピックアップしました。皆さんの記憶の中には何が残っていますか。

3年ぶりに“日田のまつり”開催

第75回日田川開き観光祭

第75回日田川開き観光祭が3年ぶりに通常規模で開催された。天候にも恵まれ、2日間の来場者数は計9万8,000人。ブラジル人のプロダンサーや市民ダンサーたちによるスペシャルサンバパレードもあり、市内は熱気に包まれた。



日田祇園

新型コロナウイルス感染拡大のため、集団顔見世は中止となったものの、大和町、若宮町、港町、平成山の山鉾計4基が巡行。豆田下町、三隈町、川原町は飾り山を行い、豪華絢爛な山鉾が3年ぶりに日田の夏を彩った。4月には、日田祇園の振興、保存・継承に大きく貢献された後藤稔夫氏（日田祇園山鉾振興会名誉会長）に文化庁長官感謝状が伝達された。



第43回日田天領まつり・第18回千年あかり

第43回日田天領まつり・第18回千年あかりが3年ぶりに開催され、約7万5,000人の来場者が訪れた。「郡代夫婦思い出づくり」では、4組の夫婦が天領日田の町並みを散策。約2万本の幻想的な灯には、新型コロナウイルス感染症の終息を願う思いが込められた。



「進撃の日田」の快挙

令和3年7月～令和4年6月の期間に実施された優れた広告企画に授与される㈱講談社主催の「講談社メディアアワード2022」を、進撃の日田まちおこし協議会の「進撃の日田」地域活性化プロジェクトが受賞した。「進撃の日田」を活用した日田への誘客、日田の名産品とのコラボグッズの販売などの取組みが高く評価された。



東京2020オリンピック・パラリンピックの 日田材をレガシーに

市は、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の「日本の木材活用リレー～みんなで作る選手村ビレッジプラザ～」に日田材を提供。オリンピック終了後、返還された日田材を大会のレガシー（遺産）として残すため、活用策やデザインの「アイデア」を募集し、東屋やベンチ等に活用することが決まった。東屋は、竹田公園のせせらぎ水路のそばに完成し、ベンチも竹田公園などの3か所に設置された。



ガランドヤ古墳公園がオープン

国指定史跡「ガランドヤ古墳」の保存管理や歴史とふれあう市民の憩いの場として、ガランドヤ古墳公園が3月27日にオープンした。公園内には1号墳保存施設、2号墳環境調査施設とともにガイダンス棟を設置。ガイダンス棟では、古墳の概要をパネルや模型で解説し、動画や1・2号墳の石室VRビュー画像も閲覧できる。



「日田市手話言語条例」がスタート

手話が言語であるとの認識に基づき、手話を通じて「全ての市民が相互に人格及び個性を尊重し、地域で安心して暮らすことのできる社会」を目指す条例が制定された。



ウクライナからの避難者受入れ

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻の影響を受けた避難者6人を、民間団体との連携のもと受け入れた。住宅の提供や教育に関する支援を行ったり、困りごとの相談に応じたりするなど、生活のサポートを続けている。



日田駅周辺広場が完成!

令和2年からリニューアル工事を進めてきた日田駅北広場及び日田駅地下歩道が、5月20日から供用開始された。これによって、日田駅南広場と合わせた日田駅周辺の一体的な整備を全て終えた。日田駅周辺広場は、にぎわいづくりのイベントの開催などを想定。マルシェや商店街の催しなど、たくさんの市民に利用してもらいたい。



大山文化センターリニューアル

令和3年から大規模改修を行っていた大山文化センターが完成し、7月1日にリニューアルオープンした。施設内は、Wi-Fi環境を整備し、高輝度プロジェクター等を設置。各種会議や研修会、イベント会場として多くの人に活用してほしい。

